

3 (2)

[問題の概要]

日常的な話題について、必要とされる情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題である。

[出題の趣旨]

必要とされる情報を正確に聞き取るためには、言語活動が行われる場面や目的（ここでは先生が生徒に2日にわたる学校行事の説明をする）、その状況を踏まえて、特定の事実や出来事など聞き手にとって必要となる情報(ケンタの所属するチーム)を正しく理解できているかがポイントになる。また補足として、資料を読み必要な情報を聞き取る問いであるため、「読むこと」「聞くこと」どちらの要因で正答できなかったのか、その点を見極めることも大切である。

[授業改善へのメッセージ]

必要な情報を正確に聞き取るためには、何が聞き手にとって必要な情報か（時間や場所、目的など）を把握することが大切である。具体的な指導としては、1日の行動や旅行の計画などを読み、順序や場所を表す語句に注目させ、時間の前後関係や場所の位置関係を正しく聞き取る活動、また人に関わる情報を捉え、動作や目的に合わせて正しく理解する活動などを関連付けて繰り返し行うことで、読み取る力だけでなく、聞き取る力も身に付けさせることが大切である。

5 (3)

[問題の概要]

日常的な話題や社会的な話題に関する文章を読んで、大切な部分を理解し、その内容を読み取ることができるかどうかをみる問題である。

[出題の趣旨]

会話文や説明文などで大切な部分をとらえる際には、文章全体を通して読み、複数の情報の中から重要な情報または必要な情報は何か等を判断することが大切である。文章全体を漫然と読むのではなく、繰り返し用いられる語(例えば volunteer や day)、キーワードとなる語(soccer や game)、ボブとタクヤそれぞれの意見の主張や問いかけなどを手がかりにしながら、最も大切な語句や文を理解し、正しく読み取れているかが重要である。

[授業改善へのメッセージ]

文章の内容を読み取るためには、大切な部分を把握し、何が重要な情報かを判断することが大切である。具体的な指導としては、絵やグラフなどの資料を含んだ様々な形式の英文に触れ、全体のおおまかな内容を捉えるだけでなく、大切な内容を表す英文や語句を選ばせる活動、また把握した内容を比較するなどをして、文章の大切な部分について意見交換をする活動などが効果的である。

7 (2)

[問題の概要]

与えられた情報に基づいて、疑問詞を用いた英文を正確に書くことができるかどうかをみる問題である。

[出題の趣旨]

コミュニケーションに必要となる語や文法事項に誤りがないよう注意することが大切である。具体的に注意することとしては、主語や動詞、目的語等の主要となる語の欠落、また疑問詞の使用(which や where)や疑問文に関連する文構造の誤りなどである。伝えたいことを読み手に正しく伝えるためには、語句や文法事項等を正しく理解して表現できることが大切である。

[授業改善へのメッセージ]

英文を正しく書くためには、コミュニケーションの状況設定を踏まえ、基本的な語句や文法事項の定着と活用が必要である。具体的な指導としては、コミュニケーションの目的や場面、状況を設定した言語活動において、5W1Hを扱った言語材料を聞いたり、読んだり、書いたり、話したりと様々な場面で繰り返し使用する活動、また、ペア学習など生徒同士で表現し合い、誤りに気づき、修正を加えるといった振り返りのある活動を行うことが大切である。

9 (1)

[問題の概要]

与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意して、文脈に沿う英文を書くことができるかどうかをみる問題である。

[出題の趣旨]

新聞部の生徒とエミリーのインタビューでのやりとりの意見に触れながら英語1文でまとめる。この与えられた条件をもとに、First violin teacher と Father をどう関連付けて書けているかが重要である。さらに、読み手に正しく伝わるように、語句や文法事項等の誤りがない英語で書かれているか、文と文のつながりに注意して自然な流れに合うように表現できているかも大切である。

[授業改善へのメッセージ]

複数の領域を関連させた言語活動には、「話して書く」「読んで書く」などの言語活用能力が必要である。具体的な指導としては、「ペアでやり取りして話したことを書く」や「読んだことについて感想や意見などをまとめて書く」など、複数の領域を統合させることで書く内容を増やしたりまとめたりする言語活動、また英文を読み合い、よりよく読み手に伝わるように書く指導、例えば、生徒自身が読み直し、誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高める活動などが効果的である。